

# 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和4年第Ⅲ四半期（7～9月）

設備投資：やや上昇

資金繰り：わずかに悪化

採算状況：前期の改善から戻す動き

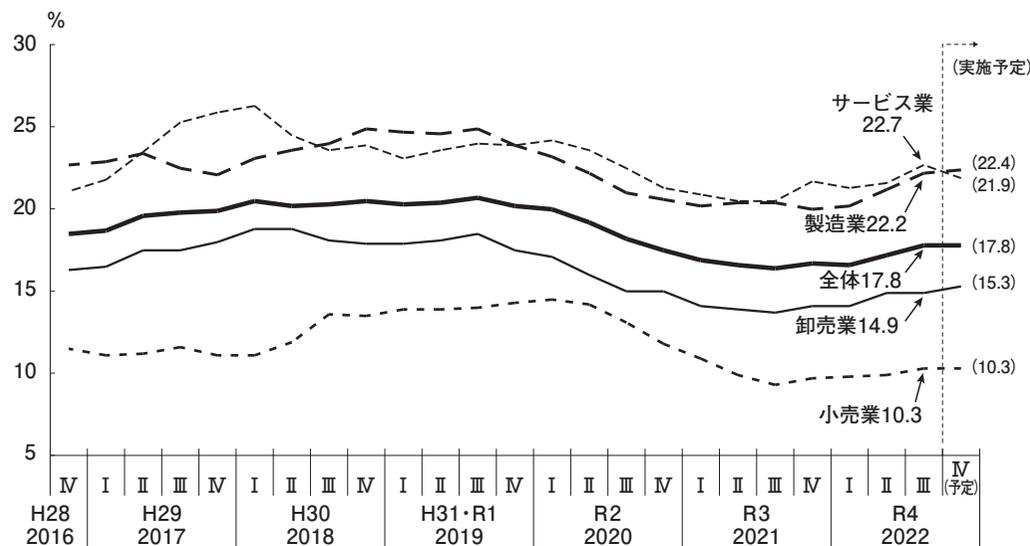
雇用人員：不足感が強まる

## ■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（令和4年7～9月）に設備投資を「実施した」割合は全体では17.8%となり、前期（令和4年4～6月）の17.2%からやや上昇した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合はサービス業22.7%（前期21.6%）と製造業22.2%（同21.2%）がともに上昇、小売業10.3%（同9.9%）はわずかに上昇した。卸売業14.9%（同14.9%）は横ばいで推移した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和4年10～12月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では17.8%となり、当期と比べて横ばいで推移する見通しとなった。

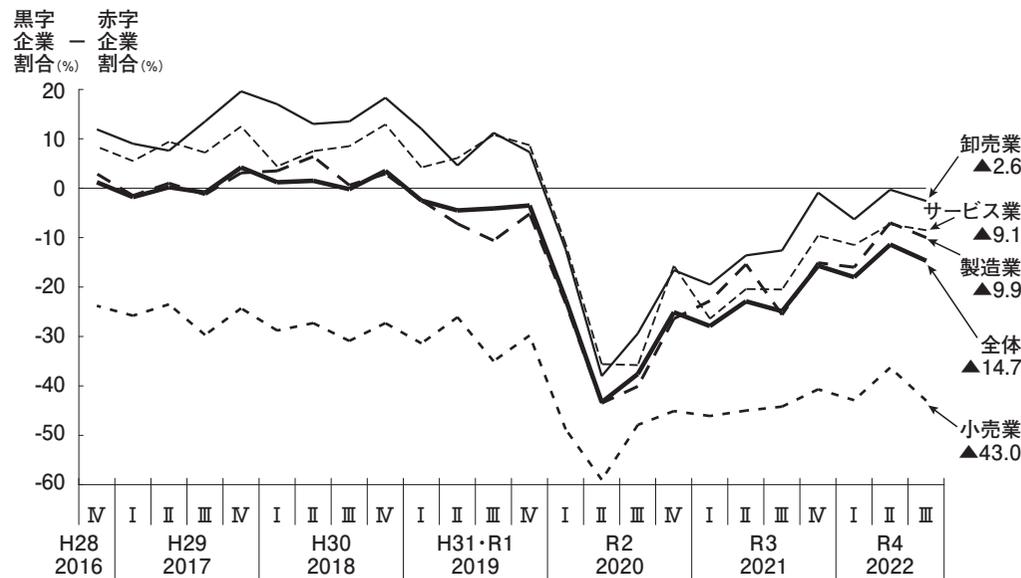
業種別にみると、製造業22.4%と卸売業15.3%はともにわずかに上昇が見込まれる。サービス業21.9%は低下する見通しとなった。

## ■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合で見ると、全体では▲14.7（前期▲11.4）となり、前期の改善から戻す動きとなった。

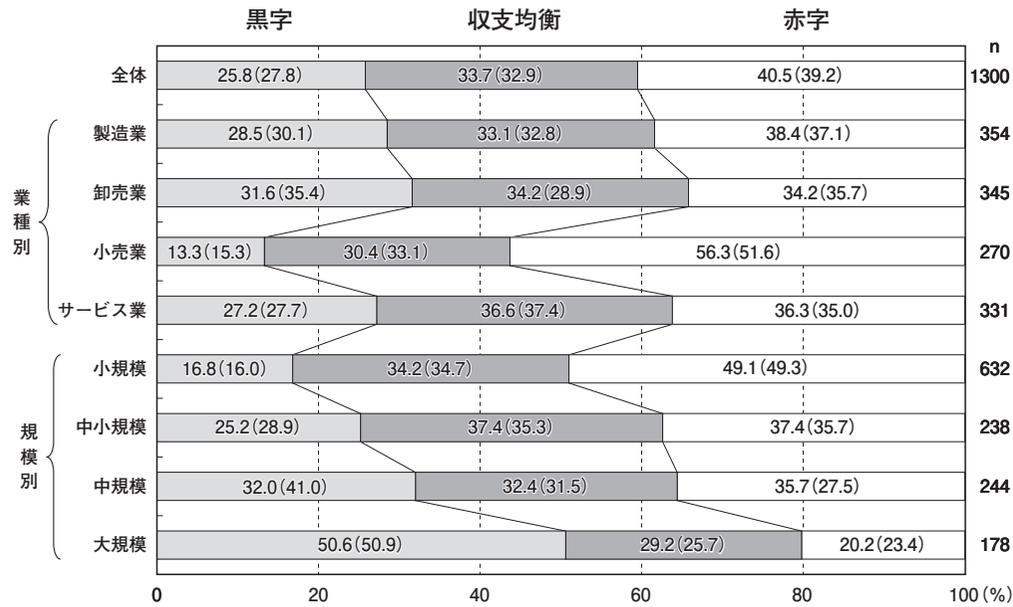
業種別にみると、小売業▲43.0（同▲36.3）は6.7ポイント減少し大幅に悪化した。製造業▲9.9（同▲7.0）は2.9ポイント減少、卸売業▲2.6（同▲0.3）は2.3ポイント減少、サービス業▲9.1（同▲7.3）は1.8ポイント減少しそれぞれやや悪化した。

図表2 採算状況の推移



規模別にみると、小規模では黒字が16.8%（同16.0%）であるのに対し大規模では黒字が50.6%（同50.9%）を占める。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和4年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

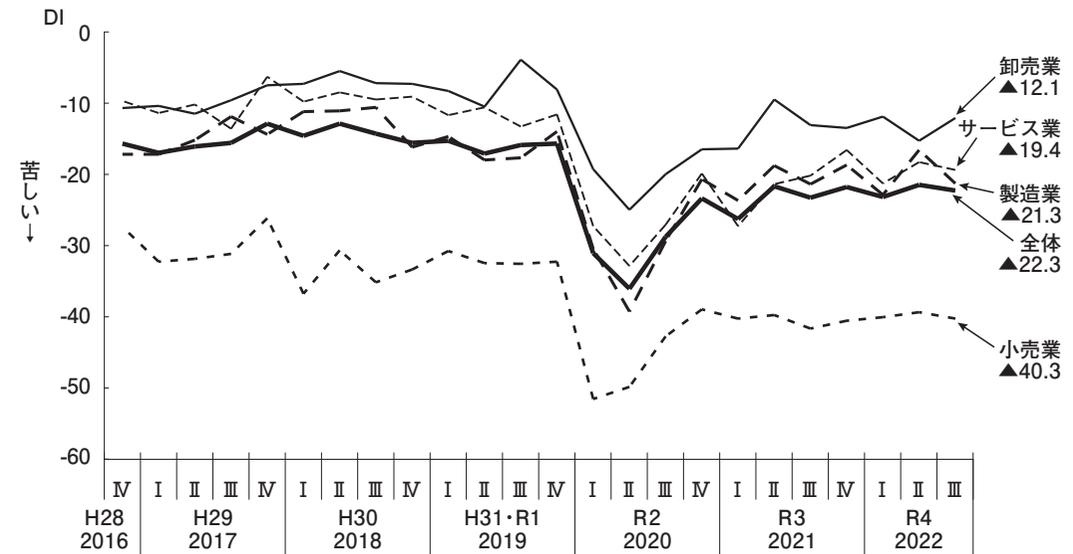
## 資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI(「楽」-「苦しい」)でみると、全体では▲22.3(前期▲21.5)と0.8ポイント減少しわずかに悪化した。

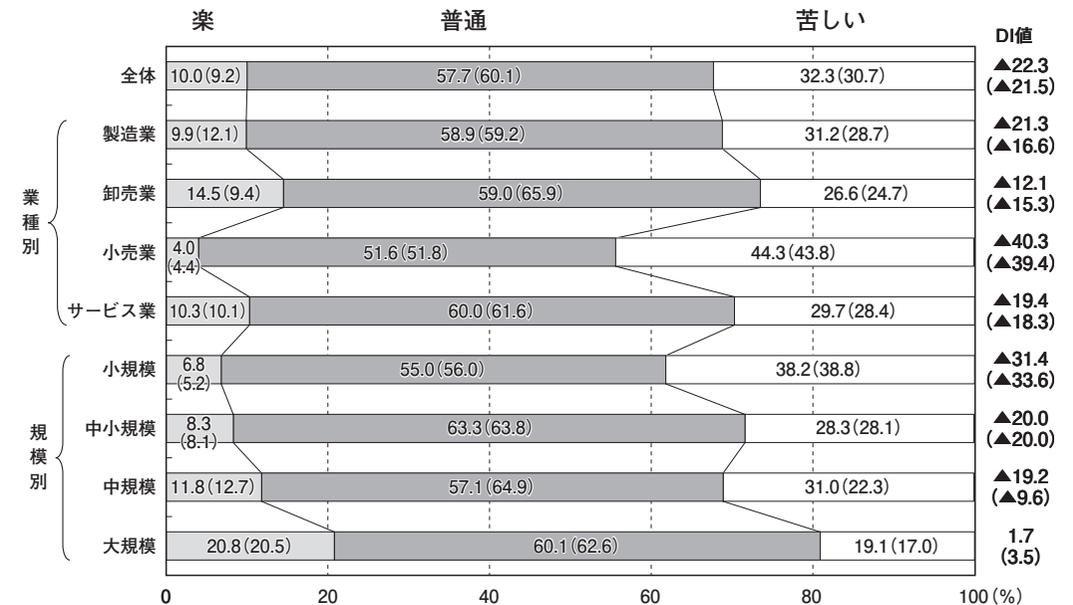
業種別にDI値をみると、製造業▲21.3(同▲16.6)は4.7ポイント減少し悪化した。サービス業▲19.4(同▲18.3)は1.1ポイント減少、小売業▲40.3(同▲39.4)は0.9ポイント減少しともにわずかに悪化した。一方、卸売業▲12.1(同▲15.3)は3.2ポイント増加し改善した。

規模別にDI値をみると、中規模▲19.2(同▲9.6)は9.6ポイント減少し大きく悪化、大規模1.7(同3.5)は1.8ポイント減少しやや悪化した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）



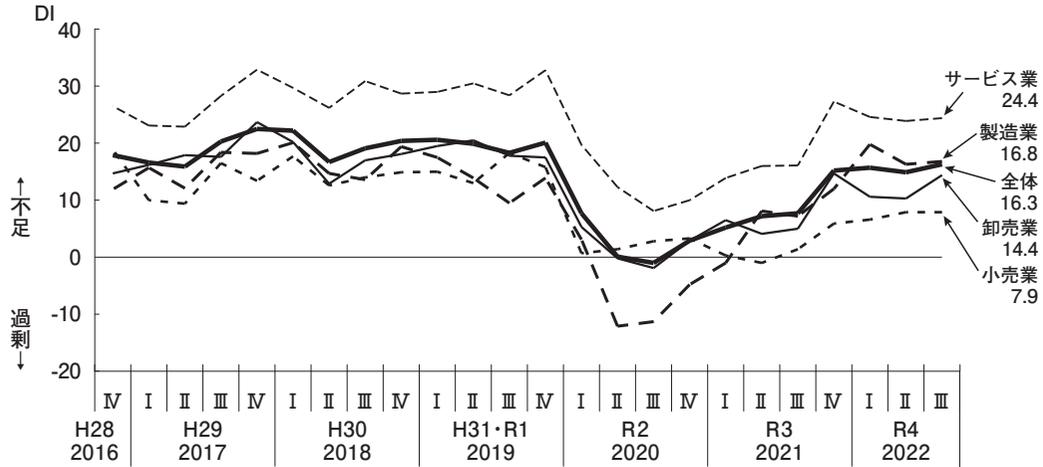
注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和4年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

## ■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI(「不足」-「過剰」)で見ると、全体では16.3(前期14.9)となり、不足感が強まった。

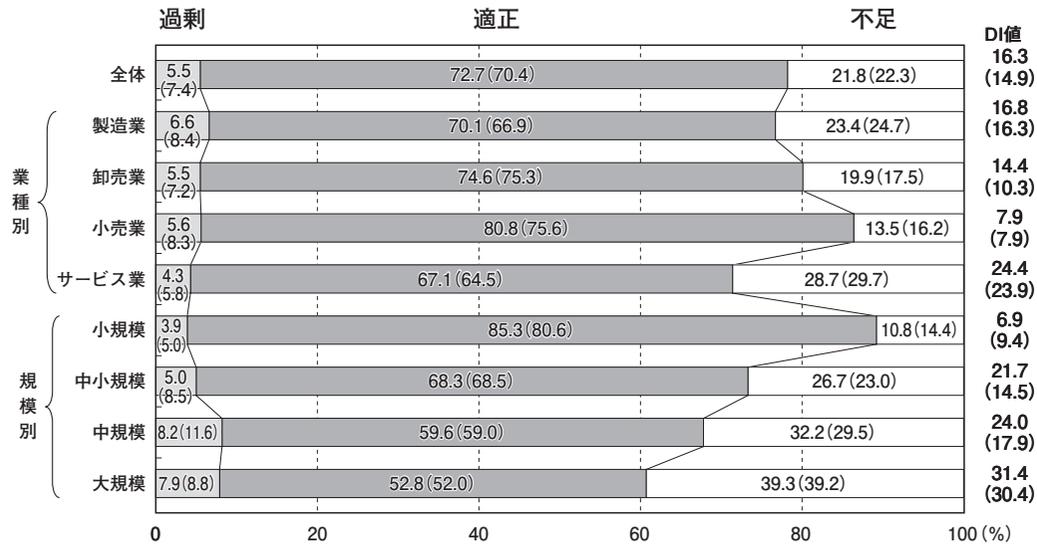
業種別にDI値をみると、卸売業14.4(同10.3)は4.1ポイント増加し上昇した。

図表6 雇用人員DIの推移



規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は31.4(同30.4)となった。

図表7 雇用人員の状況 (業種別・規模別)



注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和4年4~6月)の数値。  
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。